

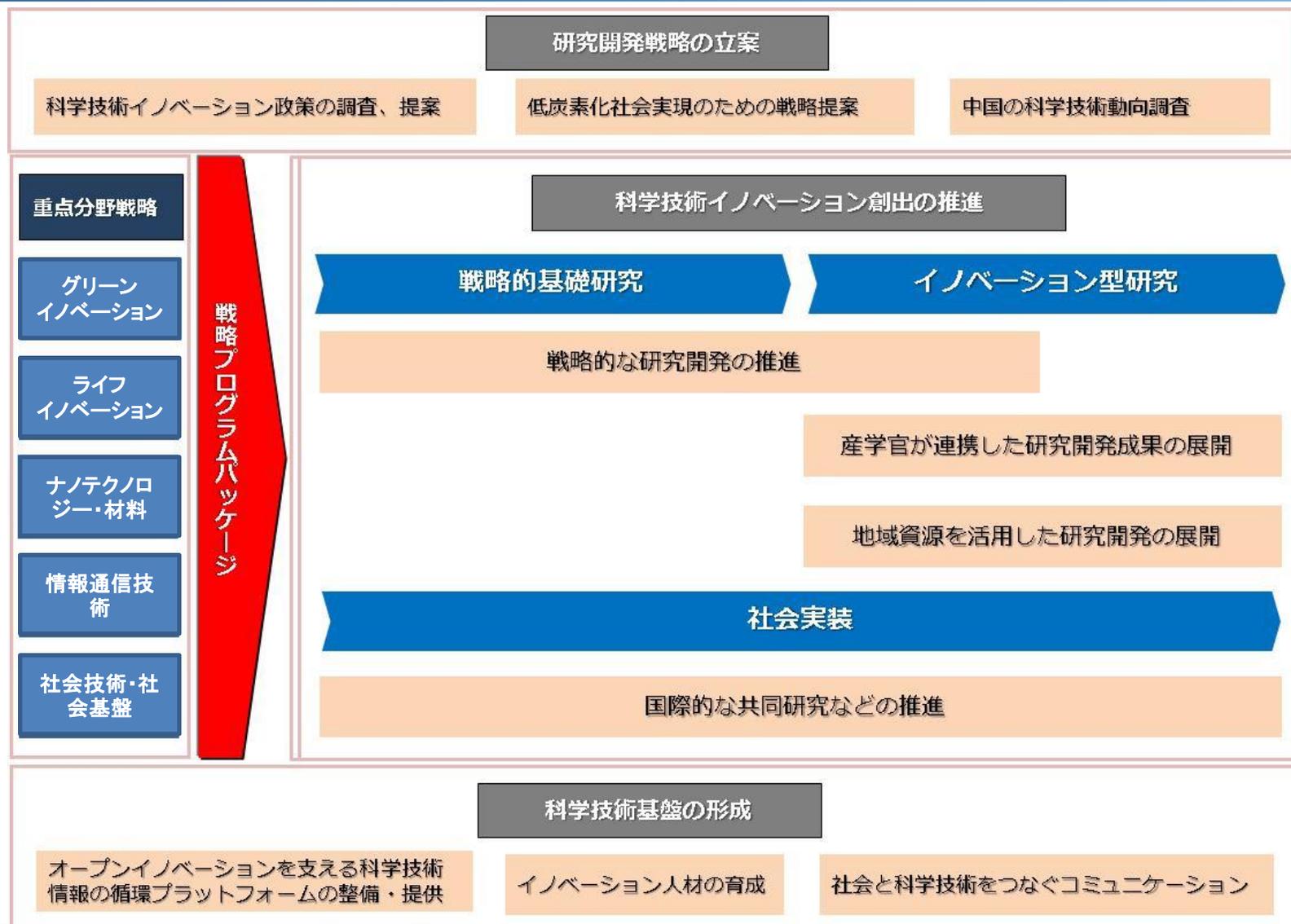
社会技術研究開発について

平成28年4月



科学技術振興機構

JSTの事業概要



社会技術研究開発について

目的

社会における具体的問題の解決を通じ、国または社会技術研究開発センターが定める目標等の達成を図り、もって社会の安寧に資することを目的とする。

取組・アプローチの特質

【問題の発掘】

- 多種多様な社会問題の俯瞰的把握
- 関与者(ステークホルダー)との密接なコミュニケーション

【研究開発の実施】

- 現場主義(関与者との協働)
- 人文・社会科学と自然科学との連携
- PDCAサイクルの徹底

【成果の活用】

- 社会への実装を強く意識

I. 社会における取り上げるべき 具体的問題の探索・抽出

- 子ども・若者
- 高齢社会
- 都市・地域
- 科学技術ガバナンス
- 環境・エネルギー
- 医療・介護
- 産業競争力
- 災害・事故
- etc.

- 研究会
- インタビュー
- ワークショップ
- 各種調査
- フォーラム・シンポジウム

社会的・公共的
価値の創出

定着

- NPO
- 行政
- 企業

普及

成果の社会への実装

追跡評価

II. 研究開発領域・プログラムの設定

文献等調査・
インタビュー・
ワークショップ

領域具体案立案

ワークショップ・
フォーラム

国等の方針

事前評価
領域設定、領域総括決定

- 産学官市民の参画
- 人文・社会・自然科学の協働
- NPO
- 産業
- 研究者
- 人文・社会・自然科学
- シーズ・科学技術の新たな知見

要請・ニーズ

社会

協働

科学
技術

III. 研究開発の推進

研究開発領域・プログラム

課題募集・選考、領域会議、
現地調査、ネットワーク拡大

研究開発プロジェクト

研究体制構築、詳細な現状
調査・分析、仮説設定

PDCAサイクル

解決策立案・改訂

社会実験

中間・事後評価

IV. プロトタイプの提示

方法論、適用条件(地域特性・制約)、担い
手育成・確保、技術の要素、社会の受容・
合意形成、受け手の規模...

そのまま社会へ

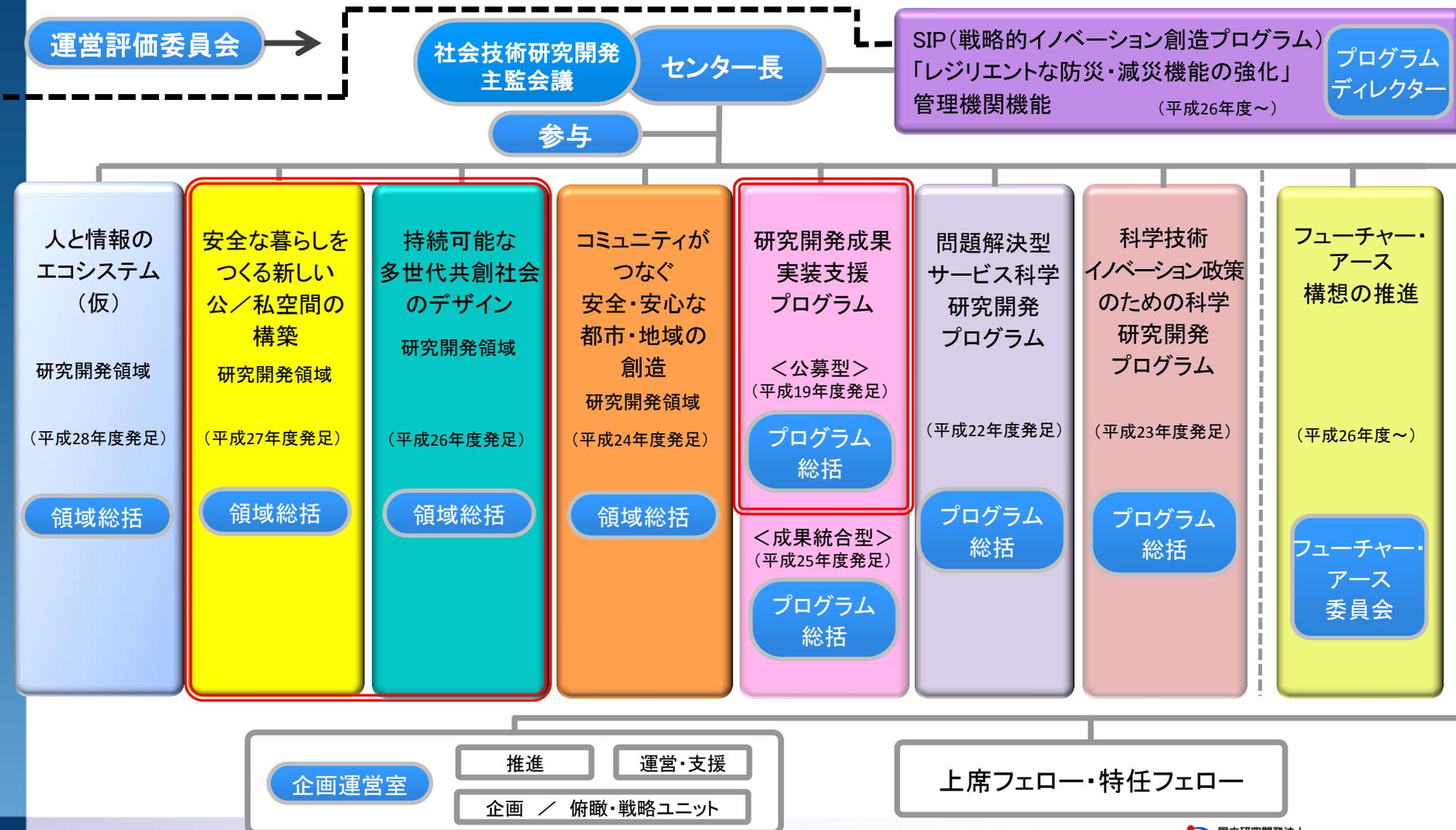
情報提供・ネットワークの活用

V. プロトタイプの実行支援

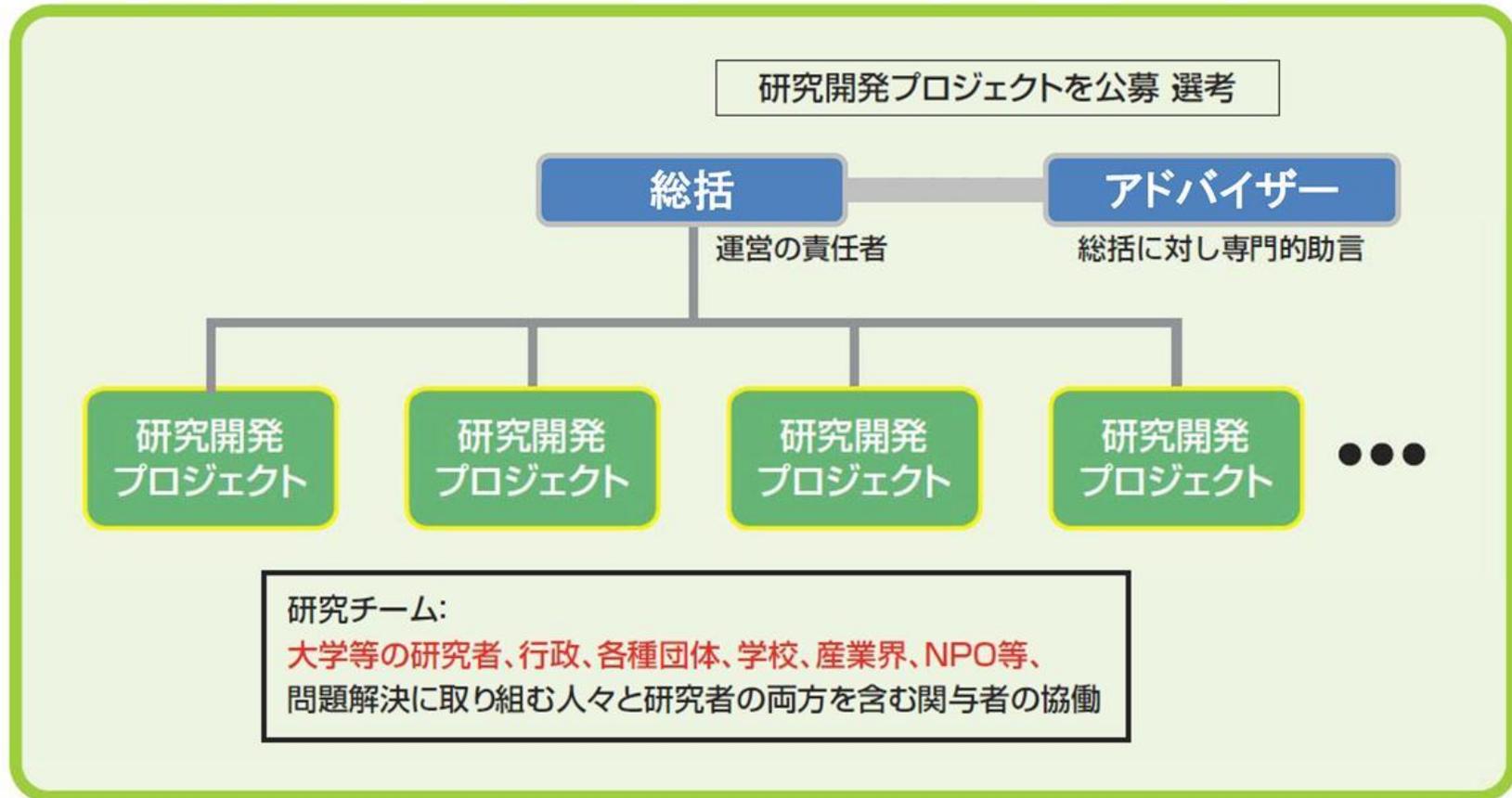
研究開発成果実装支援プログラム

他制度の成果

社会技術研究開発センター組織図



研究開発領域・プログラムの運営体制



- 研究開発プロジェクト(課題)の募集・選考、領域会議、サイトビジット(現地視察)、領域全体会議(研究開発実施者を含む合宿)等 の実施
- 必要に応じ、研究開発プロジェクトの計画変更、統廃合も実施
- アウトリーチ活動、 外部関与者との人的ネットワークの構築